

2025年度 事業報告

第1 各事業の推進状況

1 UTMSに関する調査、研究及び開発

(1) UTMSの発展に資する調査研究

- ・ 総合デザイン関連の検討

2025年度は、2024年度に引き続き、当協会の実証実験を実施する上での示唆を得るため、「新制御方式研究委員会」（一般社団法人交通工学研究会に運営委託）に関する活動を実施した。

(2) UTMSの高度化と要素技術に関する研究開発

ア 高度交通管制システム関連の調査研究

- ・ 高度化PICSを活用した歩行者保護等に関する検討

2024年度より、歩行者向けインフラ整備に関する検討と、SIP第3期事業と連携した高度化PICS等を活用した配送ロボット、小型モビリティ等の歩行者空間を利用するモビリティに対する信号情報配信の検討及び実証を実施している。

2025年度は、2024年度に開発した試作機をつくば市に設置して、開発者等による模擬アプリによる体験や、歩行空間を利用するサイバーデザイン社の次世代型モビリティ（サイバニック・スマートモビリティ）との連携を確認した。

イ ネットワークに関する調査研究

- ・ アナログ回線の代替に関する検討

2028年度にサービス終了が案内されているNTTアナログ専用回線の代替策として、中央装置、端末装置の両方で既設機器をそのまま使用し、回線両端でアナログ-IP変換を行う措置を講じることにより、通信回線を広域イーサネット回線等のデジタル回線に更新することが可能かどうか実フィールドでの検証を昨年度実施したが、U形伝送の光ビーコンで通信異常の発生が見られたことから、今年度も再検証のための実フィールド実証を実施した。

なお、実フィールドでの検証は警視庁管内において、U形伝送の光ビーコンが設置されている2交差点にて実施した。

ウ 交通映像に関する調査研究

従来から、交差点に設置する画像感知器等のカメラ画像を利用し、右折感応によるミクロ制御や、交通管制センターでの交通流監視が行われている。本調査研究は、このカメラ画像を更に広く活用することを目的としている。

2024年度に引き続き、「交通流監視カメラ（ITV）から得られる映像データを活用したセンサーへの適用の可能性及びユースケースの検討」を実施した。

2025年度は新たに ITV の映像から車両用信号灯器および歩行者用信号灯器ならびに交通流（自動車、自転車、歩行者）を検出し、サイクル単位での交通量のデータ収集を行うことで信号制御の青信号時間に対する需要率の算出について検証を実施した。

(3) プローブ情報活用関連の研究開発

・ 交通流制御に関する調査研究

警察庁の委託事業「今後の交通管制の在り方に関する調査研究」の研究成果に沿って、民間プローブ情報を信号制御に活用するにあたり、適用する条件等の導入交差点選定における基準や運用時における留意事項等について、導入マニュアル及び技術ガイドラインを検討し、標準規格委員会に上程した。

また、ITS-TEA との連携により、ETC2.0 プローブデータの交通管制への活用可能性の検討を進めている。ケーススタディとして、岐阜県警の協力の下、信号制御パラメータの見直しを目的とする実験交差点を選定し、ETC2.0 プローブデータによる交通状況の評価を実施している。

(4) 路車協調システム関連の研究開発

ア DSSS に関する地域実証実験

2021年度以降、電波活用安全運転支援システム（DSSS）の設備より収集した車車間通信プローブ情報から交通管制の高度化を目指した調査研究を継続中である。2025年度は、東京都及び埼玉県の収集情報から急減速の分析を行い4件の事故可能性事象を抽出することができた。

イ 自動運転に向けた信号情報提供及び信号制御に関する調査研究

自動運転インフラ作業部会の下、V2I-SWG 及び V2N-SWG において、信号情報提供技術の検討を実施している。

V2I-SWGにおいては、自動運転に対応した路側機からの信号情報提供について検討を進めており、信号制御機仕様の改訂案、ITS 無線路側機仕様の改訂案及び路車間通信規格等の関連規格の改訂案について検討を進めている。

V2N-SWGにおいては、交通信号情報提供プラットフォームを活用した信号情報提供について検討を進めており、2023年度にNEDOから受託した、SIP第3期事業「V2N方式による汎用的な交通信号情報提供プラットフォームに関する研究開発」と緊密に連携を取りつつ、その実現のための技術課題等について詳細な検討を進めている。

ウ 事業者等による ITS 無線路側機の運用を想定した実証実験

従前より ITS 無線路側機は警察のみで設置・運用がなされてきているが、2025年度は事業者等による ITS 無線路側機の運用を想定したシステム構築・設置・運用の検討に着手した。さらに、モデルケースとして、埼玉県の実際の交差点に ITS 無線路側機を設置してサービス品質の信頼性検証、警察の中央装置に代わる事業者等の ITS 無線管理装置と接続した無線管理機能の成立性検証、ならびに警察および事業者等の間の責任分界の妥当性検証を進めた。

(5) 運転免許証 IC カードの互換性等に関する調査研究

モバイル運転免許証については、国際機関である ISO（国際標準化機構）及び IEC（国際電気標準会議）の合同会議において国際規格の策定に向けた審議が進められており、これまでに、モバイル運転免許証の基本仕様が規定された国際標準（18013-5、18013-6、18013-7）が制定されている。

2025年度は、モバイル運転免許証に関する国際的な動向の調査として2025年9月にアリゾナ州で開催されたAAMVA AIC(Annual International Conference)に参加し、アリゾナ州など実用化状況のヒアリングを実施した。また文献調査として米国におけるモバイル運転免許証実装ガイドライン（MobileDLGuidelines1-5）の翻訳を実施した。

(6) UTMS の費用対効果に関する調査研究

効果試算の前提となる基礎数値の最新値を調査し、それらを用いて8つのサブシステム（ITCS、DSSS、PICS、FAST、AMIS、PTPS、EPMS、HELP）の費用対効果の試算を行った。また、サブシステムの機能変更及び外部環境の変化による計算式の見直しの必要性を確認した。

(7) その他の調査研究（受託事業）

- ・ V2N 方式による汎用的な交通信号情報提供プラットフォームに関する研究開発

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期／スマートモビリティプラットフォームの構築」の一環として、オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社、日本信号株式会社、パナソニック コネクタ株式会社及び UTMS 協会の4者でコンソーシアムを組成し、NEDO から事業を受託した。

SIP 第2期の成果である V2N 方式の信号情報提供技術を活用して、自動運転の他多様なモビリティに提供できるプラットフォームの構築を目指している。特に、これまで着手していなかった非集中信号制御機を対象とする信号情報提供技術の確立を課題としている。

2025 年度は、委員会を6回（第10回～第15回）開催した。

特に10月7日から9日にかけてつくば駅周辺に関係者を集めた大規模先導実証実験の体験会と視察会をおよそ100名の参加のもと行った。V2N-TSPS、V2N-PICS、サイバーダインとのコラボによる高度化 PICS、自転車やキックボード対象の安全走行支援システムなど様々なアプリケーションを評価していただき高い評価を得た。

2 技術サポートの実施

一般財団法人道路交通情報通信システムセンターの要請による VICS システムに関する技術サポートを行った。

3 UTMS に関する標準化の推進

標準規格委員会によるシステム・機器の標準化に関する提言及び規格の制定等として、「今後の交通管制の在り方」調査研究結果等に鑑み、関連文書（仕様化検討提案書、仕様書解説検討提案書、規格文書等）28点を改訂した。

【参考】2025 年度改訂文書

- i. 交通信号制御機 仕様化検討提案書
- ii. 交通信号制御機 仕様書解説検討提案書
- iii. U形交通信号制御機 U形通信アプリケーション規格
- iv. 信号制御ブロック 仕様化検討提案書
- v. 信号制御ブロック 仕様書解説検討提案書
- vi. 交通情報ブロック 仕様化検討提案書
- vii. 交通情報ブロック 仕様書解説検討提案書
- viii. システム管理ブロック 仕様化検討提案書

- ix. システム管理ブロック 仕様書解説検討提案書
- x. 情報交換ブロック 仕様化検討提案書
- xi. 情報交換ブロック 仕様書解説検討提案書
- xii. HMI 装置 仕様化検討提案書
- xiii. HMI 装置 仕様書解説検討提案書
- xiv. 端末制御ブロック 仕様化検討提案書
- xv. 端末制御ブロック 仕様書解説検討提案書
- xvi. 交通管制センター上位装置 プログラム仕様化検討提案書
- xvii. 端末制御ブロック通信アプリケーション規格
- xviii. 交通管制センター対 PTPS/FAST (携帯電話網方式) 車載機間通信アプリケーション規格
- xix. 公共車両優先システム (PTPS) / 現場急行支援システム (FAST) システム定義書 (案) - 携帯電話網方式編
- xx. ITS 無線路側機 仕様化検討提案書
- xxi. ITS 無線路側機 仕様書解説検討提案書
- xxii. ITS 無線路側機 通信アプリケーション共通規格
- xxiii. ITS 無線路側機 DATEX-ASN メッセージ共通規格
- xxiv. ITS 無線路側機 DSSS 用路車間通信アプリケーション規格
- xxv. ITS 無線路側機 DSSS 用 DATEX-ASN メッセージ規格
- xxvi. ITS 無線路側機 PTPS 用 DATEX-ASN メッセージ規格
- xxvii. プローブ情報を利用する省感知器制御等の導入マニュアル
- xxviii. プローブ情報を活用した信号制御ガイドライン

4 国際標準化会議等への参画と提案

(1) 国際標準化機構 (ISO/TC204) の標準化審議への参画と提案

ITS 標準化委員会及び技術委員会に委員を派遣するとともに 2 つの国内分科会 (WG 9、WG10) の事務局を引き受けている。また、公共交通関係の WG8、協調システム関係の WG14、WG18、モビリティ関係の WG19、AI・ビッグデータ関係の WG20 に専門家を派遣している。

2025 年度は、5 月にヨルダン (アンマン) で第 65 回 ISO/TC204 総会、10 月に米国 (リバーサイド) で第 66 回 ISO/TC204 総会が開催された。

これらの総会に伴って開催された各 WG の国際会議やそれ以外の時期に開催された国際会議に、UTMS 協会からも多くの委員が対面で参加し、国際標準化の提案や作業項目の審議等に参画した。主な進捗は以下の通りである。

ア ISO19082

プローブデータを活用する交通信号制御のユースケースと要件に関する技術仕様（TS）について、国際規格（IS）に更新できるよう関係各国と協議を重ね、2025年11月に国際規格（IS）が発行された。

イ ISO22951

緊急車両と公共車両の優先信号制御に関するデータ辞書とメッセージセットに関する国際規格である。本規格は、発行から20年近くが経過したことから、UTMS協会主導で更新作業に着手することになった。今後、PTPS高度化作業部会等と連携して作業を進める。

ウ ISO14823-2

標識をGlobalに識別するIDとそのASN.1伝送構文に関する国際規格（IS）が2024年5月に発行された。それに併せ、ASN.1伝送構文の標記例集ISO14823-2の更新作業を開始した。

エ ISO/TS24315

電子交通規制管理（以下「METR」という。）に関する技術仕様（TS）のシリーズである。11月に開催された国際会議において、実運用を開始した日本の交通規制情報収集・管理システムをMETRのユースケースとしてUS DOT（米国運輸省）等の主要メンバーに紹介し、同システムの先進性の周知を図った。また、WG19国内分科会内にMETR検討会を設置し、METRに関するコメントを検討した。

(2) ISO/IEC JTC1/SC17/WG10 への参画と提案

国際標準化機構（ISO）と国際電気標準会議（IEC）の合同技術委員会ISO/IECのJTC1/SC17/WG10では、運転免許証及び関連書類の検討を行っている。

近年、同WGの活動はモバイル運転免許証に関する活動に大きくシフトしており、モバイル運転免許証関連を扱う3つのタスクフォース（TF14、TF15、TF16）が特に活発な活動を行っている。

2025年度は、8回の国際会議が開催（リモート開催4回、ハイブリッド開催4回）されたが、UTMS協会からはハイブリッド会議（ベルリン、フェニックス、ウェリントン、ビクトリア）での現地参加を含む全ての国際会議に参加した。

これまで、日本は、モバイル運転免許証及びその試験方法に関する国際標準の開発に積極的に貢献しており、特に、モバイル運転免許証の試験方

法を扱うタスクフォースのリーダー及びモバイル運転免許証の試験方法を規定する国際標準のエディタを UTMS 協会からの参加者が引き受けている。

2025 年度は、モバイル運転免許証の非対面環境における提示のためのプロトコルを規定する ISO/IEC 18013-7 第 2 版が 5 月に、モバイル運転免許証の試験方法を規定する ISO/IEC TS 18013-6（当協会の委員がエディタを務めた）の第 2 版が 11 月に正式に発行された。また、欧州でのモバイル運転免許証の実用化の加速に伴い ISO/IEC 18013-5 の第 2 版が開発されている。また、運転免許証以外の証明書に技術を展開すべく、ISO/IEC 7367 シリーズ（mdoc スキーマ）の開発が加速され、車両登録証明書、車両検査報告書等を扱う国際標準が相次いで開発されており、UTMS 協会からも積極的に規格開発に貢献している。

11 月にニュージーランドでモバイル運転免許証の互換性検証イベントが開催されており、加えて 9 月（米国）、11 月（ニュージーランド）、2 月（カナダ）と、モバイル運転免許証のショーケースが開催されており、世界的にモバイル運転免許証の普及に向けた動きが加速している状況にある。

また、我が国ではモバイル運転免許証の技術を応用したマイナンバーカードの Apple Wallet 対応サービスが 6 月からスタートし、将来のモバイル運転免許証の実用化が視野に入った状況にあり、日本の関係省庁からも情報収集のため国際会議に参画している。

5 協会活動に使用する共通システム等の検討

(1) 運営基準関連

UTMS 協会の委員会、分科会、及び作業部会活動の円滑化を図るため、ガイドラインの見直しを行った。

規格会議を経て UTMS 協会で制定される規格類と、警察庁仕様化提案を経て警察庁で制定される警交仕規文書において、制定タイミングのずれによる不整合が発生した場合、その後の標準化検討に混乱をきたすことが予想される。このため、規格制定のフローを見直し、警交仕規制定のタイミングに規格制定を合わせることを目的として、「各種作業部会等会議運営ガイドライン」の改訂を検討した。今後正式発行に向けた審議を予定している。

(2) U ネット（TENG）関連

各種委員会の名簿更新などの定常的な運営及び保守を行った。

(3) 交通管制用語集関連

最近の ITS に関する技術的進歩は目覚ましく、UTMS を中心とする新しい交通安全施設の開発に伴い、交通管制用語集の充実が必要とされている。

2025 年度は、交通管制用語集「版 3 d」作成時に登録された用語の見直しを行うとともに、交通管制用語集「版 5 c」の電子ファイル版を対象に、改訂された仕様書、仕様化検討提案書、システム定義書、規格等から抽出した新用語の登録を行い、「版 5 d」へ改版した。

6 UTMS に関する知的所有権の保有及び管理

「一般社団法人 UTMS 協会知的財産権取扱規程」第 4 条第 2 項の規定に基づく必須の特許権等の有無を確認したが、必須の特許権等を有するという回答は無かった。

7 UTMS に関連する国内外の機関、団体等との交流及び情報交換

(1) 国内の関係機関、団体等との交流及び情報交換

・ UTMS セミナー2025 の実施状況

警察庁交通局及び ITS Japan の後援を得て、2024 年に引き続きリアル
の会場とオンラインを併用したハイブリッド方式により、UTMS セミナー2025 を
開催した。

- ・ 日時：2025 年 11 月 7 日（金）13：00～18：00
- ・ 場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（ハイブリッド開催）
- ・ 主催：一般社団法人 UTMS 協会
- ・ 後援：警察庁交通局、特定非営利活動法人 ITS Japan
- ・ プログラム

第 1 部 講演「多様なモビリティへの信号情報提供が UTMS にもたらす
もの」

基調講演 I 「自動運転の実現に向けた警察の取組について」

警察庁 交通局交通企画課理事官 伊藤 琢範 氏

基調講演 II 「SIP 第 3 期スマートモビリティプラットフォームの構築
における取組の全体像」

筑波大学 名誉教授 SIP 第 3 期／スマートモビリティプラット
フォームの構築 PD

石田 東生 氏

招待講演 I 「自動運転車における信号情報の有効活用に向けて」

名古屋大学 モビリティ社会研究所 所長・教授 高田 広章 氏

招待講演 II 「先導実証実験の実施状況について」

UTMS 協会 SIP 第 3 期コンソーシアムメンバ 馬淵 透 氏

第2部 パネルディスカッション「信号情報提供と UTMS その変化への対応」

【モデレータ】

東京大学 生産技術研究所 教授 中野 公彦 氏

【パネリスト】

筑波大学 名誉教授 SIP 第3期／スマートモビリティプラット

フォーラムの構築 PD 石田 東生 氏

名古屋大学 モビリティ社会研究所 所長・教授 高田 広章 氏

UTMS 協会 SIP 第3期コンソーシアムメンバ 馬渕 透 氏

警察庁 交通局 交通企画課 課長補佐 加藤 秀紀 氏

UTMS 協会 SIP 第3期コンソーシアムメンバ 高柳 雄一 氏

UTMS 協会 SIP 第3期コンソーシアムメンバ 田山地 剛義 氏

(2) 国外の関係機関、団体等との交流及び情報交換

ア 第31回 ITS 世界会議アトランタ 2025 への参加状況

- ・開催日 : 2025年8月24日(日)～28日(金)
- ・場所 : 米国ジョージア州アトランタ
Georgia World Congress Center Hall A
- ・テーマ : Deploying Today, Empowering Tomorrow
- ・参加者等 : 6,000人以上
- ・出展者数 : 225
- ・UTMS 協会の取り組み状況
 - ① セッション企画
警察庁と合同でスペシャルインタレストセッションを企画、UTMS 協会から2名発表。
 - ② 論文発表
テクニカルセッションで1名発表。
 - ③ 展示
ITS Japan が主催する Japan Pavilion で展示ブース出展、V2I 及び V2N による信号情報提供システムに関する研究開発等を紹介。

イ 第105回 TRB(Transportation Research Board)会議

2026年1月、米国ワシントン D.C. で開催された、交通関連では世界最大規模の学会である TRB 会議に参加した。

本会議には約1万名が参加し、600以上のセッションで発表が行われた。

今回の会議では、AI 技術、C-V2X などの革新的な技術の社会的受容性に関する取組みについてのコメントが多くみられた。

併設された展示会場では 250 以上の企業・団体が出展した。

最終日に UTMS 協会は SIP 3 期のスマートモビリティの社会実装にむけての取組み内容の概要を 100 名の参加者の前で説明した。

内容は V2X の技術の活用、キックボードや歩行者や交通弱者向けのインフラを整備するとともに、交通ルールを遵守し円滑に運転するモビリティ運転者に対し、適正な保険料を適用する取組みが必要とされている。これらの施策を社会実装するにあたっては、コスト負担の観点も含め、保険業界を巻き込むことの重要性がグローバルに認識されている旨のスピーチをおこない 2026 年の 7 月開催予定の ATS2026 での WORKSHOP への参加を打診された。

8 協会の目的達成のために必要な普及等の事業

(1) 機関誌等の発行

機関誌「UTMS」第 14 号（通巻第 41 号）、「UTMS ニュース」第 25 号及び第 26 号を発行した。

(2) 協会ホームページのリニューアル

適宜掲載内容を更新した。

第2 会議等開催状況

1 総会

第16回

開催日・場所

2025年6月11日(水) アルカディア市ヶ谷(6階霧島の間)

審議事項

第1号議案 2024年度事業報告の承認を求める件

第2号議案 2024年度決算報告の承認を求める件

第3号議案 任期満了による役員を選任を求める件

報告事項

- ・2025年度事業計画
- ・2025年度予算
- ・会員の現況
- ・分科会等組織の現況
- ・一般社団法人UTMS協会事務室の移転、統合日程について

2 理事会

第54回

開催日・場所

2025年5月22日(木) 一般社団法人UTMS協会(2階会議室)

審議事項

第1号議案 第16回総会の開催について

第2号議案 定款第6条の会員入会の承認を求める件

第16回総会付議事項

第3号議案 2024年度事業報告の承認を求める件

第4号議案 2024年度決算報告の承認を求める件

第5号議案 任期満了による役員を選任を求める件

報告事項

- ・2025年度事業計画
- ・2025年度予算
- ・会員の現況
- ・分科会等組織の現況
- ・一般社団法人UTMS協会事務室の移転、統合日程について

第55回

開催日・場所

2025年6月11日（水）アルカディア市ヶ谷（6階霧島の間）

審議事項

第1号議案 定款第29条に基づく理事長及び専務理事の選定について

第2号議案 常勤役員（理事長、専務理事）の報酬額を理事長一任とすることについて

第3号議案 理事長職の代行について

報告事項

- ・今後の会議日程（事務局案）

第56回

開催日・場所

2025年12月10日（木）アルカディア市ヶ谷

審議事項

第1号議案 2026年度研究開発費関係予算による実証実験計画及び同収支見込（素案）の承認を求める件

報告事項

- ・2025年度研究開発費関係実証実験計画の実施状況
- ・UTMSセミナー2025の実施結果
- ・ITS世界会議2025アトランタの参加状況
- ・2025年度受託調査研究事業契約状況
- ・2025年度協会事務室の移転、統合経費の支出について
- ・760MHz帯ITS路側機普及促進コンソーシアム（仮称）の設立について
- ・2026年の会議（理事会・総会等）日程（事務局案）

第57回

開催日・場所

2026年3月19日（木）一般社団法人UTMS協会（会議室）

審議事項

第1号議案 2026年度事業計画の承認を求める件

第2号議案 2026年度予算の承認を求める件

第3号議案 2026年度研究開発費関係実証実験計画について

報告事項

- ・会員の現況
- ・今後の会議日程

3 事業に係る委員会の活動状況

(1) 企画調整委員会の活動状況

理事会への付議事項審議、UTMS セミナー2025 の企画立案等の担当業務推進のため、所属分科会を含め 9 回の会合を開催した。

(2) 研究開発委員会の活動状況

研究開発計画の企画立案、実証実験の検討等業務推進のため、所属分科会、作業部会等を含め 47 回の会合を開催した。

(3) 標準規格委員会の活動状況

各種装置の仕様化検討、通信規格の制定等標準化業務推進のため、所属分科会、作業部会を含め 22 回の会合を開催した。

(4) 国際活動委員会の活動状況

ITS に関する国際標準化業務及び各種国際会議への参加等国際協力業務推進のため、所属分科会を含め 4 回の会合を開催した。

(5) 受託事業における委員会等の開催状況

- ・ SIP 第 3 期 NEDO 事業「V2N 方式による汎用的な交通信号情報提供プラットフォームに関する研究開発」

委員会を 6 回開催した。

(6) 委託事業における委員会の開催状況

- ・ 「新制御方式研究委員会」

委託先の交通工学研究会において、委員会を 5 回開催した。

事業報告の附属明細書

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。